

〔代表者〕 人文学部 3年 向後 春輝

**連携先**

(有)森田屋縫製(茨城県指定 障害者就労継続支援事業者)〔SATURN project by 森田屋〕

(・水戸市内の小学校・水戸市内の高校 ・水戸市内の保育園幼稚園)一來場客として

**参加者**

向後 春輝 (人文学部 人文コミュニケーション学科 3年)

為我井 敏弘 (人文学部 社会科学科 3年)

岩崎 祐子 (人文学部 人文コミュニケーション学科 3年)

富塚 千鶴 (人文学部 社会科学科 3年)

玉手 宏太郎( // )

山下 雅矢( // )

大木 愛( // )

前野 泰那( // )

渡部 香織( // )

**プロジェクトの実施概要****(1)プロジェクトの概要**

このプロジェクトは、茨城大学水戸キャンパスにて、ワークショップを伴う大規模フリーマーケットを開催することで、さまざまな人々との FLEAI(ふれあい)や、エコ意識の向上を実現する企画である。

出店者及び来場客としては、大学生はもちろん、小学生にも参加してもらい、キッズフリーマーケットも同時開催する。また、(有)森田屋縫製様の協力のもと、廃棄され

るはずのはぎれ布を、エコバッグに変身させるワークショップを、来場者と一緒に体験する。

さらに、当日売れ残った商品は「モッタイナイ STATION」にて一部回収し、リサイクルショップ等で換金後、水戸市内の小学生に還元されるようなかたちで募金をする。

参加者は、フリーマーケットによって「自分がいらなくなったものが、誰かに喜んで使ってもらえる」ことに気付き、ワークショップによって「廃棄物さえも、魅力的なグッズに生まれかわる」ことを知る。

イベントを後にする際、参加者が自分なりに『モッタイナイ』について考えられるような一日をプロデュースする企画である。

**(2)連携の方法・内容**

■茨城県指定障害者就労継続支援事業者である(有)森田屋縫製様のプロジェクト：

『SATURNproject by 森田屋』とコラボレーションし、大学内にて出張ワークショップを開催していただく。当日の来場者(小学生・大学生・地域住民)には、「廃棄されるはずのはぎれ布が、エコバッグとして生まれ変わる」という感動を自らの手で体験してもらい、本プロジェクトのコンセプトである “モッタイナイを考える” 機会とする。森田屋縫製様とはすでに提携済みであり、今後も相談を重ね、より良い企画を作り上げていくことで一致している。

※(有)森田屋縫製様に関しては別紙に詳細を記載

■近隣小学校に訪問し、活動内容を説明する。小学生及び親御様に出店者・来場客としてイベントに参加して頂けるよう、各小学校の協力のもと、広報活動を行う。

### (3)実施計画

#### ■6月～8月：

- ・イベント規模に合わせ、運営組織となる実行委員会を立ち上げる。
- ・近隣小学校に訪問し、活動内容を説明する。広報活動に関する協力を依頼する。
- ・森田屋縫製様との企画会議を重ね、ワークショップの詳細を決定する。

#### ■9月～10月：

- ・近隣小学校にて広報活動(参加者募集)
- ・茨城大学生への広報活動(参加者募集)

#### ■10月下旬：

⇒プロジェクト 『FLEAI マーケット～モッタイナイを考える～』 開催予定  
場所は茨城大学水戸キャンパスを希望する。

### (4)期待される成果

茨城大学生に対しては、キャンパス内でフリーマーケットが開催されることにより、学年・学部・所属サークルの枠組みを超えた幅広い学生間交流が実現する。また、当日は小学生との交流機会もあるため、普段なかなか接することのない人々とのコミュニケーションを通じ、多様な価値観に触れられる一日となる。

一方、小学生に対しては、大学生との交流はもちろん、本プロジェクトは「商売体験」という貴重な学習機会となる。どうすれば商品が売れるのか？お金を稼ぐとは？お客さんとのコミュニケーション術など、あらゆる面での考える力が養えるであろう。

また、参加者には『SATURNproject by 森田屋』とのワークショップを体験してもらうことで、本プロジェクトのコンセプトである “モッタイナイを考える” 機会としてもらい、近年叫ばれるエコ意識の向上につなげていただきたい。

最後に、『学生地域参画プロジェクト』を大学キャンパス内にて行うことにより、在学生及び地域住民における同プロジェクトの認知度が向上し、来年度以降、より魅力的なプロジェクトが、企画・実現されるきっかけとなれば幸いである。

### プロジェクトの成果報告

11/1(日)茨城大学水戸キャンパスにて

『FLEAI マーケット～モッタイナイを考える～』を開催。

このイベントは、「茨城大学生によるフリーマーケット」と「SATURN project by 森田屋によるエコバッグ作りワークショップ」の2つの企画から成り立つものである。

以下に実施報告と成果を記す。

#### ■対外広報

##### 【ポスター】

大学2校(常磐・水戸短大)

高校15校(水戸市内の全高校)

幼稚園・保育園12箇所

(ビラ 計5000枚配布) 小学校10校

#### ■地域住民との交流

本イベントでは、地域住民を中心に600人以上の方々にご来場いただくことが出来た。年齢層は3歳から80歳の方までと多岐にわたり、多くの参加者から感謝の言葉をいた

だった。

なかでも、エコバッグ作りワークショップへの参加を目的とし、親子連れの参加者が目立った。(開場前にも関わらず来場して下さるお客様が多数いた。)

また、高齢者の方も、一人もしくは夫婦で来場して下さった。エコバッグ作りを体験するのはもちろん、「孫に買っていこうと思ってね。」とフリーマーケットで商品を購入していくお客様も多数いたことには驚かされた。

さらに、高校生も来場してくれたようで、今回のイベントを通じてオープンキャンパスとはまた異なる“茨城大学の雰囲気”を感じてもらえたのではないかと考えている。

後日談になるが、街でそのエコバッグを持った小学生に出会ったり、スタッフがアルバイト先でイベントに来場した高校生に「茨城大でフリマをなさってた方ですよ？本当に楽しかったです。茨城大学って活気に溢れているのですね。私は茨城大学が第一志望なのですが、イベントに参加して茨城大学に入りたいという思いがより一層強くなりました。」と声をかけられるなど、決して一方的ではない、相互に影響のあるイベントが開催できたと考えている。

今回のイベントを通して、茨大生に対する地域住民の「期待」を感じた。「第2回茨城大学 FLEAI マーケット」の開催も視野に、これからも茨城大学と地域住民が一体となれる機会を提供していきたい。

#### ■在学生への波及効果

フリーマーケットの出店者として、40店舗・約150人の学生に参加していただいた。

「本当に楽しかった。」「こんな企画初めてだね。」「地域住民との良い交流の機会になった」との声ももらった。

そして、今回のイベントを通して「私も何かをしたい!」と思っている学生が多く存在していることを知った。事実全く面識のなかった後輩や先輩から「イベントのノウハウを教えてほしい」との声を複数いただき、早速彼らと情報共有をした次第である。私たちのイベントの波及効果で、学生発信の新規イベントが次々に誕生してくれればいいと思う。また、学生発信の新規イベントが誕生する土壌として、今年度「学生地域参画プロジェクト」の認知度を高めることができたという点に関しても、私たちのイベントの意義はあったと思う。

#### ■ボランティアによる社会貢献

当日は、「モッタイナイ STATION」を運営本部に設置した。これはフリーマーケットにて売れ残った商品を出店者に持ち帰らせるのではなく、本部にて回収し、リサイクル業者を通じ換金を行うものである。結果、およそ12,000円を茨城新聞社を通じ社会福祉事業に募金することが出来た。

また、スタッフが売上げた金額20,000円を地球市民 ACT かながわ(特定非営利法人 NGO)に募金することもでき、社会貢献活動も行ったことを挙げる。

今年度は採択初年度ということもあり、まずはイベントを成功させることに重きを置いた。

来年以降は今回の経験や反省を活かし、イベントの規模や広報範囲、交流の幅を広げていきたいと考えている。